

令和8年6月 教育委員会定例会会議録

1 開会の日時

令和8年6月11日（木） 午前9時30分

2 出席委員

新 倉	聡	教育長
澤 田 真 弓	委 員	（教育長職務代理者）
川 邊 幹 男	委 員	
元 木	誠	委 員

3 出席説明員

教育総務部長	小 甲	諭
教育総務部総務課長	沼 田	英 治
教育総務部教育政策課長	緒 方	宣 人
教育総務部教育環境整備課長	飯 田	達 也
教育総務部生涯学習課長	杉 山	賢 一
教育総務部教職員課長	筒 井	宣 行
教育総務部学校管理課長	大 道	裕
学校教育部長	北 川	貴 章
学校教育部教育指導課長	原 口	尚 延
学校教育部支援教育課長	橘	恒 仁
学校教育部保健体育課長	原	康 弘
学校教育部学校食育課長	依 田	隆 治
学校教育部教育情報担当課長	宮 原	充 宏
中央図書館長	加 藤	博 昭
博物館運営課長	北 山	剛
教育研究所長	杉 戸	美 和

4 傍聴人 2名

5 議題及び議事の概要

- 教育長 開会を宣言
- 教育長 本日の会議録署名人に澤田委員を指名した。

○ 教育長報告

(新倉教育長)

それでは、5月定例会から本日までの間の所管事項について報告をいたします。

お手元の教育長報告資料をご覧くださいと思います。

6月8日から6月定例議会が開催されたところです。9日、10日に本会議が開催され、一般質問等が行われました。この後、来週、予算決算常任委員会等が開かれまして、議案等の審議をいただくこととしています。

その他の事項につきましては、記載のとおりです。後ほどご参照いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

(質問なし)

教育長 報告事項を聴取することを宣言

報告事項(1)『教職員の働き方改革における令和7年度実績について』

(教育政策課長)

教育政策課から、教職員の働き方改革における令和7年度実績についてご報告いたします。

資料の1ページをご覧ください。

教職員の働き方改革については、教職員が健康で笑顔で働き続けるために、質の高い教育活動を目指すことを目的として、令和4年3月に教職員の働き方改革の方針、「よこすかスクールスマイルプラン」を策定し、取り組みを進めています。このスクールスマイルプランでは、4つの目標指標を設定しており、目標指標の達成状況や教職員の働き方改革に関する実態について把握し、今後の取り組みに生かすため、学校に時間外在校等時間等のアンケート調査を実施しています。

今回の報告では、小学校と中学校の結果を中心に説明します。

まず、プランにおける目標達成状況について説明します。

令和7年度の状況を総括いたしますと、全体的にはさまざまな指標で改善傾向が見られるものの、職種や学校種別による偏りがあり、私たちが目指す高い目標の達成に向けては、依然として大きな課題が残る状況となっています。

以下、4つの指標に沿って報告いたします。

初めに、プランの目標指標の①時間外在校等時間が月45時間を超えた教職員の割合の結果です。11月の小中学校の結果からは、月45時間を超えている割合は全体的に減少傾向にあり、学校内で最も職員数の多い総括教諭・教諭の結果を見ますと、小学校は14.9%、中学校は45%と、前年度と比べてともに減少しており、一定の改善傾向が見られます。しかし、中学校の教員においては、依然として半数近くが高い水準にあります。

次に、学校マネジメントを担う管理職の状況ですが、こちらは職種によって動きは分かれております。まず、中学校の教頭におきましては、令和6年度の34.8%から22.7%へと減少いたしました。これは各学校における業務の効率化に関する優良事例の横展開などが功を奏し、着実に改善に向かっている成果であると捉えております。

一方、依然として対策が必要なのは小学校の教頭職です。前年の67.4%から少し減少したものの、令和7年度も59.1%と約6割という極めて高い水準のまま高止まりしております。

また、グラフ上、中学校の校長17.4%、養護教諭15.4%、次ページ、高等学校の校長25%と、それぞれ前年度より増加に転じていますが、これらにつきましては、45時間を超えた職員が昨年度より1名増えたことによって率が上がってみえているものと思われます。引き続き動向を注視してまいりたいと思います。

次に、資料下段の②年360時間超えの割合についてです。

小学校や特別支援学校では減少しているものの、中学校においては、令和6年度から2年連続で67%という極めて高い数値のまま高止まりしております。

3ページをご覧ください。

次に、目標指標の年次休暇を年間15日以上取得することについての結果です。

表の②平均取得日数は、一般の総括教諭・教諭は全体で15日3時間、また、養護・栄養教諭は全体17日0時間とそれぞれ目標水準をクリアいたしました。また、前年より向上しています。しかし、その一方で、管理職の休暇取得の状況は、悪化しております。①のとおり年間15日以上取得した割合は、校長全体で前年の31.6%から12.3%へ、教頭全体でも16.7%から12.9%へ大きく低下しております。特に、中学校の校長においては15日以上取得した割合は0.0%となりました。②平均取得日数を見ましても、中学校の校長は6日と1時間、中学校の教頭は8

日と1時間となっております。

4ページをご覧ください。

次に、目標指標の健康リスクの各項目及び標準値を下回っている学校の割合です。

実施しているストレスチェックは、ストレスチェック調査票の回答を計数化し、その合計点を判定しています。厚生労働省の示す基準値を100とし、数値が高いほどストレス等も大きくなっています。各項目の市全体平均値は改善傾向にあります。仕事の量的負担を判定する健康リスク（A）につきましては、標準値を上回っている状況が続いています。

次に、下段の表の指標「子どもと向き合う時間が確保されている」及び次ページ、「自己研鑽の時間が確保されている」に対する回答状況です。「子どもと向き合う時間が確保されている」と肯定的な回答は全体の47.3%、「自己研鑽の時間が確保されている」との回答は26.9%でした。それぞれ微増となっているものの、目標として掲げる80%以上という数値には依然として大きな乖離がございます。

事務局では、本日ご説明したスクールスマイルプランの目標指標の実績等を整理し、国の動向も注視しながら、子どもと向き合う時間を十分に確保し、心身ともに健康な状況で職務を遂行できるよう教職員の働き方改革を進めていきたいと思っております。

以上で、説明は終了します。

（澤田委員）

ストレスチェックの実施後のフローについて教えていただきたいと思います。

特に、高ストレス者への対応についてです。一般的には高ストレス者に対して産業医等との面談や、組織によっては安全衛生委員会等において職場環境の改善などの検討や措置がなされると思いますが、市内の学校では、どのようなフローになっているのか教えていただければと思います。

（教育政策課長）

実際ストレスチェックで数値が出てきましたら、まずはその学校の校長先生などにヒアリング等を行い、専門医等にかかる必要がある場合は、そういったところをご紹介しますという形を取っています。

（澤田委員）

学校全体としての分析といいますか、ストレスチェックの結果については、集団分析をしているのではないかと思います。教育委員会は学校ごとの結果を把握しているのでしょうか。

(教育政策課長)

アンケートの結果につきましては、学校名と人数までは分かっておりますが、個別については把握はできておりません。

(澤田委員)

個人の結果については、本人の同意なしには閲覧できませんが、集団分析によって、学校として特徴が分かるのではないかと思います。それによって、就業上の措置や学校全体として見直しの手掛かりが分かるのではないかと思います。横須賀市内では学校分析、集団分析はしていないということでしょうか。

(教職員課長)

所管は教職員課で行っていますので、私から回答させていただきます。

ストレスチェックにつきましては、集団分析というご指摘がありましたが、学校ごとに指標を出しています。各学校に結果をお伝えするとともに、あくまでも参考ですが、市内の学校を縦に並べて、ご自身の学校がどの辺りに位置付けられているのか、ストレスが良好なのかどうかといったことをお示ししながら、各学校の改善に役立ててもらっているところです。

それから、産業医との面談につきましても、ストレスチェックの受検者総数の中で、10%が産業医の面談の対象となりますので、そちらをご案内して、その対象者が産業医の面談を受けるかどうかを選択します。産業医の面談をした結果につきましては、学校長にお伝えしながら、その教職員の今後の体調管理に努めていただくという運びになっているところでございます。

(澤田委員)

分かりました。ありがとうございます。

(新倉教育長)

私からもちょっと付言させていただきますと、私どもが学校訪問した際に、各学校長が1年間の学校運営の中で、この数値が今高いので、そこを踏まえて校内での改善を図っているというような報告をいただいています。学校運営のキーとなる一つの指標として、学校長がそれを使いながら職場環境を含めて、改善の目安としているという形になっています。

(元木委員)

時間外在校等時間につきましては、改善の傾向が見られるというのは分かり

ました。一方で、年次休暇に関する数値については、特に校長、教頭については悪化している状況になっているということです。ということは、1日当たりの在校時間は短くなった分、休みを削って学校に来てしまっているのではないかと思われますが、そのあたりはいかがでしょうか。

(教育政策課長)

すみません、詳細の分析がまだできておりません。実際には、例えば中学校の校長が今回0名になってしまいましたが、昨年までは4名でした。指標値が15日以上取得ということなので、ある方が昨年度は14日取得していても、それはゼロになってしまいますので、そういうところもあるのかもしれない。

(元木委員)

分かりました。

(新倉教育長)

確かにパーセンテージで示すべきものなのかと思います。その具体の数字の基礎データが、どこかでやはり影響するのではないかと思いますので、この辺については、集計をされる際に、もう少し細かいデータが一緒についていると分かりやすいのかなと思います。ぜひ改めて検討していただきたいと思います。

併せて私のほうからお話しさせていただきますと、今、議会でも各議員から、働き方改革が遅々として進んでいないというご指摘をいただいています。それもありましたので、特に80時間を超えることがないように、この3月の学校長会議でお伝えし、4月に通知を出したうえで、改めて4月の学校長会議でも伝えたところです。今回、4月、5月の数字が出てきていますので、学校長から直接説明を受けるため、来週から該当する学校長のヒアリングに入らせていただこうと思っています。学校内で改善できることなのか、制度として課題があるのかという点を見極めたいと考えており、そのような形で取り組ませていただきたいと思います。

(理事者報告なし)

(委員質問なし)

○ 教育長 閉会を宣言

6 閉会及び散会の時刻

令和8年6月11日（木） 午前9時46分

横須賀市教育委員会

教育長 新 倉 聡